

鹿病防第37号
平成20年1月30日

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成19年度病害虫発生予察特殊報第3号について（送付）

南さつま市坊津のハウス栽培マンゴーにおいて、「マンゴーシロカイガラムシ」*Aulacapis tubercularis* (Newstead) の発生が認められ、特殊報第3号を発表したので送付します。
なお、病害虫防除所ホームページ (www.jppn.ne.jp/kagoshima) にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第3号

平成20年1月30日
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 マンゴーシロカイガラムシ *Aulacapis tubercularis* (Newstead)
(マルカイガラムシ科)

2 作物名 ハウス栽培マンゴー (品種アーウィン, 加温栽培)

3 発生確認および発生状況

発生確認年月日 平成19年11月22日

同定確認 平成20年1月11日 元東京農業大学教授 河合省三氏

発生状況 南さつま市坊津 (ハウス2地点, 樹齢7~8年生)

南さつま市坊津のハウス栽培マンゴーで、3地点のうち2地点、約25%の樹に寄生が認められた (写真1, 2)。本種の発生は、平成12年に与論および徳之島のマンゴーで発生が確認されていた (山口ら, 2000) が、県本土ではこれまで確認されていなかった。

4 形態及び生態の特徴

形態: 雌成虫の介殻は白色で、直径2~2.8mmのほぼ円形、扁平で、周縁部前方に黄褐~茶褐色、楕円形の1~2齢幼虫脱皮殻が付着する。雄の介殻は雪白色でもろく、雌よりも小型で細長く背面に顕著な3本の縦稜を具える (写真3)。

生態: マンゴーにのみ寄生する。年に数世代を繰り返す、ほぼ年間を通して卵から成熟成虫までの各発育段階のものが見られる。

被害: 葉、果実および枝を吸汁加害する。群生して寄生すると、葉は黄斑を生じ、枝は枯死し、生育を阻害する (写真4)。

分布: 日本には1980年代に沖縄に侵入し、南西諸島、小笠原および世界の熱帯地方に広く分布する。

5 防除対策

本虫の移動・分散、生態や防除についての報告は少ない。現在、登録農薬はないため、早期発見に努め、寄生葉、枝等を直ちに除去、処分する。また、苗を導入する場合は寄生に十分注意する。

6 引用文献

- 1) 「日本農業害虫大辞典」 (全国農村教育協会) : 306
- 2) 山口ら (2000) 九州病害虫研究会報告 第46巻 : 132-135



写真1 樹への寄生状況



写真2 枝への寄生



写真3 雌成虫（右上）と雄成虫



写真4 葉の被害